

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

アルファ

3434 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2019 年 1 月 10 日 (木)

執筆：客員アナリスト

岡本 弘

FISCO Ltd. Analyst **Hiroshi Okamoto**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 2019 年 3 月期上期業績	01
2. 2019 年 3 月期業績見通し	01
■ 事業概要	03
1. 事業セグメントとセグメント別概要	03
2. 自動車部品事業	04
3. セキュリティ機器事業	05
■ 業績動向	05
1. 2019 年 3 月期上期の業績概要	05
2. 事業別収益動向	06
3. 財務状況と経営指標	08
■ 今後の見通し	09
1. 2019 年 3 月期の業績見通し	09
2. 事業の動向について	10
■ 中長期の成長戦略	11
1. 100 年企業を目指し新たな成長ステージを模索	11
2. 各事業の展望	12
■ 株主還元策	13

要約

2019 年 3 月期に売上高 60,000 百万円、 営業利益 3,300 百万円達成に世界経済の逆風が影響するか

アルファ <3434> は、車載用・住宅用電子キーシステム、コインロッカー等を手掛ける総合ロックメーカー。

1. 2019 年 3 月期上期業績

2019 年 3 月期上期業績は売上高 28,740 百万円（前期同期比 1.1% 減）、営業利益 1,471 百万円（同 8.8% 減）、経常利益 1,450 百万円（同 15.6% 減）、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,163 百万円（同 2.2% 減）となった。売上高がセキュリティ機器事業で増加も、自動車部品事業が減少、利益面でも減収影響からコストアップや開発費増などをカバーできず減益を余儀なくされた。なお同社は業績予想について、通期予想のみ開示しており、上期の進捗率は売上高で 47.9%、営業利益で 44.6% となっているが、もともと上期は厳しく見積もっていたとのことで、同社の計画に対して上期は多少上振れしての着地となったもようである。

事業別では、自動車部品事業が売上高 24,050 百万円（前年同期比 2.7% 減）、営業利益 893 百万円（同 15.2% 減）、セキュリティ機器事業が売上高 4,688 百万円（同 7.9% 増）、営業利益 520 百万円（同 7.1% 減）となった。自動車部品事業は、国内では主要取引先の生産台数減少が影響し、売上高が前年同期比 13.7% 減の 3,991 百万円、営業損失 110 百万円と損失が拡大（同 18 百万円悪化）した。海外事業も ASSA ABLOY AB からのカーアクセス・セキュリティ事業譲受効果が一巡、売上高は前年同期比 0.2% 減の 20,059 百万円にとどまり、営業利益についても得意先の北米生産台数減少が影響、アジア、欧州の増益を打ち消し同 12.4% 減の 1,003 百万円にとどまった。セキュリティ機器事業は、売上高については国内戸建て住宅向け電気錠、インバウンド拡大によるコインロッカーオペレーション収入などが好調、海外も 2 ケタの伸びを示したものの、利益は製品 MIX と為替影響がマイナスに寄与し減益となった。なお、経常利益も為替差損の増加（前年同期の 68 百万円の差益に対し 66 百万円の差損が出たことにより 134 百万円の差異）から減益幅が拡大、親会社株主に帰属する四半期純利益では特別利益に投資有価証券売却益 313 百万円を計上したことから微減益にとどまった。

2. 2019 年 3 月期業績見通し

2019 年 3 月期の業績は、売上高 60,000 百万円（前期比 1.6% 増）、営業利益 3,300 百万円（同 2.7% 増）、経常利益 3,200 百万円（同 2.6% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 2,100 百万円（同 3.7% 増）と、期初計画に変更はない。上期が社内計画に対して上回り、同社側では通期見通しの達成が可能としている。ただし、売上高は米国自動車販売が減少する見通しに加え、欧州も排ガス規制強化等があり、アジアも米中貿易摩擦などの影響から下期の伸びが期待できない。セキュリティ機器事業は電気錠の拡販、コインロッカーの拡販などが見込まれ、売上面では順調な拡大を続けるだろう。しかし利益面では製品 MIX と為替影響等で伸びは限定的にとどまるだろう。

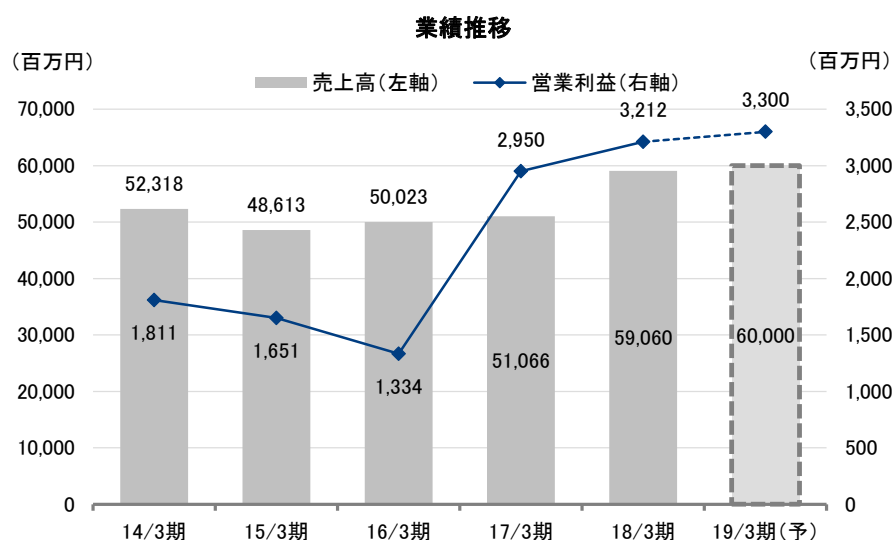
アルファ | 2019 年 1 月 10 日 (木)
3434 東証 1 部 | <http://www.kk-alpha.com/ir/>

要約

現状、米中貿易摩擦、米国での自動車販売減退、日米自動車摩擦も懸念されるなど自動車部品事業で逆風が吹き、セキュリティ機器事業の健闘があっても、通期予想達成が上限とみられる。しかし、中期経営計画である売上高 60,000 百万円、営業利益率 5% 以上 (3,000 百万円以上) の達成は可能な状況にある。

Key Points

- ・ 2019 年 3 月期上期は収益足踏みも想定内の数字
- ・ 2019 年 3 月期は 1.6% 増収、2.6% 経常増益予想も経済環境悪化で期初計画 (公表値) 未達懸念も



出所：決算短信よりフィスコ作成

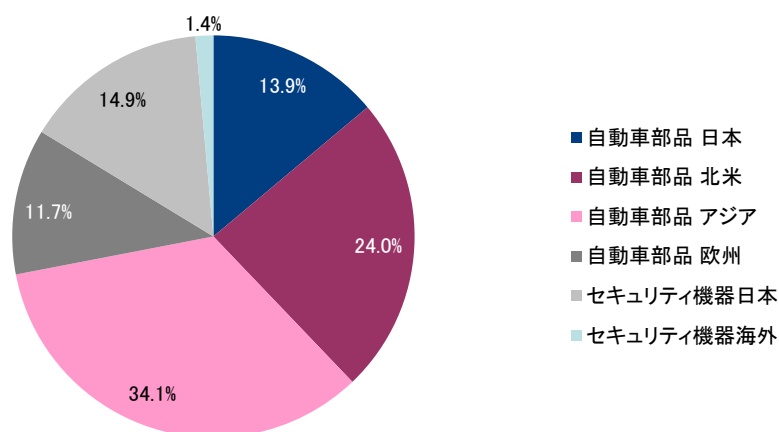
事業概要

車載用・住宅用電子キーシステム、 コインロッカー等の総合ロックメーカー

1. 事業セグメントとセグメント別概要

2019 年 3 月期上期での売上構成比は自動車部品事業 84%、セキュリティ機器事業 16% と自動車部品部門が
高い比率を占めるが、営業利益（調整費除く）では自動車部品事業 63% に対してセキュリティ事業が 37% と、
収益性でセキュリティ機器事業が勝っている。

2019年3月期上期 売上構成

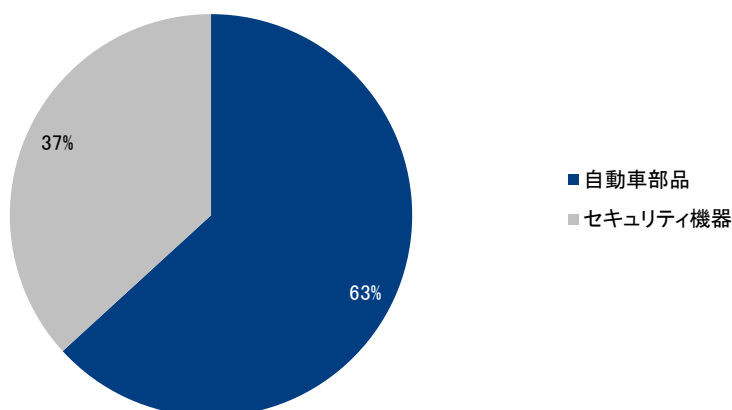


出所：決算短信よりフィスコ作成

アルファ | 2019 年 1 月 10 日 (木)
3434 東証 1 部 | <http://www.kk-alpha.com/ir/>

事業概要

2019年3月期上期 営業利益構成



出所：決算短信よりフィスコ作成

2. 自動車部品事業

同社の自動車部品事業はクルマにとって不可欠なキーセットとドアハンドルを手掛ける。主要取引先は日産自動車<7201>、日産グループ各社、VW（Volkswagen AG）グループ、本田技研工業<7267>、いすゞ自動車<7202>、三菱自動車<7211>、マツダ<7261>等である。特に日産グループとの取引が多く、2位はASSA ABLOY ABからのカーアクセス・セキュリティ事業取得に伴いVW向けとなっている。地域別ではアジアの寄与が大きく、売上の40.7%、営業利益では北米が55.9%、アジアが54.9%を占める。一方日本は売上の16.6%にとどまり、営業損失を計上している。

2019 年 3 月期上期 自動車部品地域別収益

(単位：百万円)

	売上高	構成比	営業利益	構成比	売上高 営業利益率
日本	3,991	16.6%	-110	-12.3%	-2.8%
海外	20,059	83.4%	1,003	112.3%	5.0%
北米	6,888	28.6%	499	55.9%	7.2%
アジア	9,800	40.7%	490	54.9%	5.0%
欧州	3,371	14.0%	14	1.6%	0.4%
自動車部品合計	24,050	100.0%	893	100.0%	3.7%

出所：決算短信よりフィスコ作成

3. セキュリティ機器事業

セキュリティ機器事業は売上高の 91.1% が国内であり、2019 年 3 月期上期の売上の内訳は、住宅玄関用電気錠などの住宅・産業用ロック部門が 75%、コインロッカーなどのロッカーシステム部門が 25% となっているよう。

業績動向

2019 年 3 月期上期は前年同期比 1.1% 減収、8.8% 営業減益と足踏み

1. 2019 年 3 月期上期の業績概要

2019 年 3 月期上期業績は売上高 28,740 百万円（前期同期比 1.1% 減）、営業利益 1,471 百万円（同 8.8% 減）、経常利益 1,450 百万円（同 15.6% 減）、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,163 百万円（同 2.2% 減）となった。売上高がセキュリティ機器事業で増加も、自動車部品事業が減少、利益面でも減収影響からコストアップや開発費増などをカバーできず減益を余儀なくされた。なお、四半期推移では第 1 四半期が前年同期比 3.4% 減収、同 25.5% 営業減益に対し、第 2 四半期は前年同期比 1.1% 増収、同 9.8% 営業増益と第 2 四半期に改善している。同社は業績予想について通期予想のみ開示しており、上期の進捗率は売上高で 47.9%、営業利益で 44.6% となっているが、もともと上期は厳しく見積もっていたとのことで、同社の計画に対して上期は多少上振れしての着地となったものである。

事業別では、自動車部品事業が売上高 24,050 百万円（前年同期比 2.7% 減）、営業利益 893 百万円（同 15.2% 減）、セキュリティ機器事業が売上高 4,688 百万円（同 7.9% 増）、営業利益 520 百万円（同 7.1% 減）となった。自動車部品事業は、国内では主要取引先の生産台数減少が影響し、売上高が前年同期比 13.7% 減の 3,991 百万円、営業損失 110 百万円と損失が拡大（同 18 百万円悪化）した。海外事業も ASSA ABLOY AB からのカーアクセス・セキュリティ事業譲受効果が一巡、売上高は前年同期比 0.2% 減の 20,059 百万円にとどまり、営業利益については得意先の北米生産台数減少が影響、アジア、欧州の増益を打ち消し同 12.4% 減の 1,003 百万円にとどまった。セキュリティ機器事業は、売上高については国内戸建て住宅向け電気錠、インバウンド拡大によるコインロッカーオペレーション収入などが好調、海外も 2 ケタの伸びを示したものの、利益は製品 MIX と為替影響がマイナスに寄与し減益となった。なお、経常利益も為替差損の増加（前年同期の 68 百万円の差益に対し 66 百万円の差損が出たことにより 134 百万円の差異）から減益幅が拡大、親会社株主に帰属する四半期純利益では特別利益に投資有価証券売却益 313 百万円を計上したことから微減益にとどまった。

アルファ | 2019 年 1 月 10 日 (木)
3434 東証 1 部 | http://www.kk-alpha.com/ir/

業績動向

2019 年 3 月期上期 業績

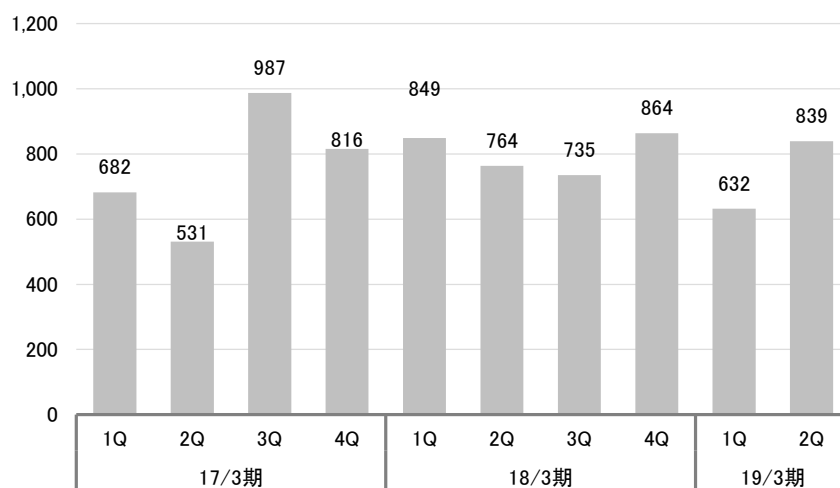
(単位：百万円)

	18/3 期上期			19/3 期上期		
	実績	対売上比	前年同期比	実績	対売上比	前年同期比
売上高	29,073	100.0%	26.6%	28,740	100.0%	-1.1%
売上原価	23,530	80.9%	25.6%	23,772	82.7%	1.0%
販管費	3,929	13.5%	30.2%	3,496	12.2%	-11.0%
営業利益	1,613	5.5%	33.0%	1,471	5.1%	-8.8%
経常利益	1,718	5.9%	613.2%	1,450	5.0%	-15.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,189	4.1%	-	1,163	4.0%	-2.2%

出所：決算短信よりフィスコ作成

四半期営業利益推移

(百万円)



出所：決算短信よりフィスコ作成

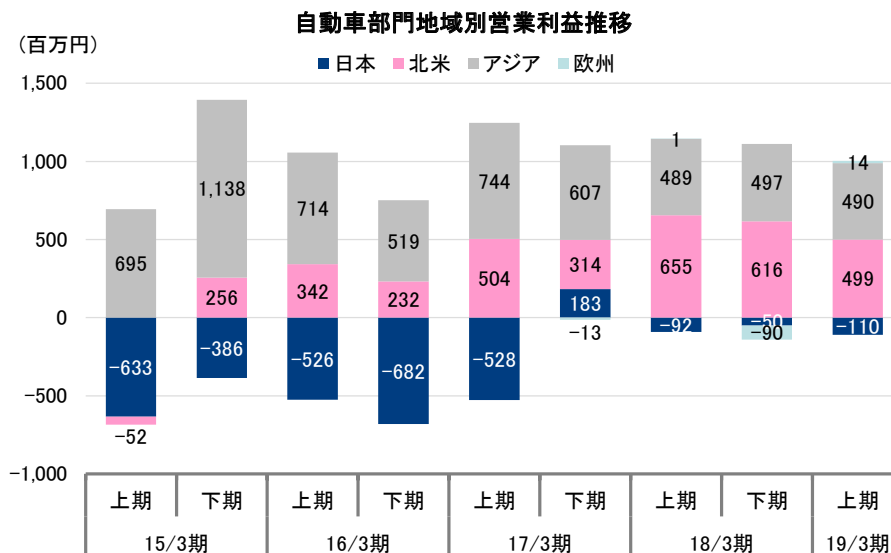
2. 事業別収益動向

(1) 自動車部品事業

自動車部品事業は売上高 24,050 百万円（前年同期比 2.7% 減）、営業利益 893 百万円（同 15.2% 減）となった。自動車部品事業は、国内では主要取引先の国内生産台数減少（前年同期比 14.4% 減の 446 千台）が影響、売上高が前年同期比 13.7% 減の 3,991 百万円、営業損失が 110 百万円と損失が拡大（同 18 百万円悪化）した。海外事業も ASSA ABLOY AB からのカーアクセス・セキュリティ事業譲受効果が一巡、売上高は北米向けが同 2.0% 減の 6,888 百万円と振るわず、全体で前年同期比 0.2% 減の 20,059 百万円にとどまり、営業利益についても主要取引先の北米生産台数減少（前年同期比 11.3% 減の 776 千台）が影響、アジア、欧州の増益を打ち消し同 12.4% 減の 1,003 百万円にとどまった。

アルファ | 2019 年 1 月 10 日 (木)
3434 東証 1 部 | http://www.kk-alpha.com/ir/

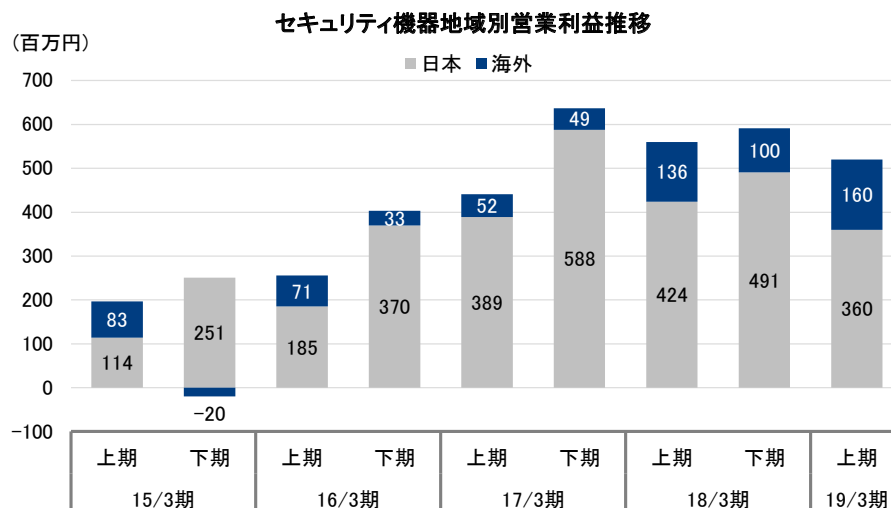
業績動向



出所：決算短信よりフィスコ作成

(2) セキュリティ機器事業

セキュリティ機器事業は売上高の 91.1% が国内であり、2019 年 3 月期上期の売上の内訳は、住宅玄関用電気錠などの住宅・産業用ロック部門が 75%、コインロッカーなどのロッカーシステム部門が 25% となっている。売上高は国内戸建て住宅向け電気錠、インバウンド拡大によるコインロッカーオペレーション収入などが好調、海外も 2 ケタの伸びを示し前年同期比 7.9% 増の 4,688 百万円となった。しかし営業利益は製品 MIX と為替影響がマイナスに寄与し、前年同期比 7.1% 減の 520 百万円にとどまった。



出所：決算短信よりフィスコ作成

アルファ | 2019 年 1 月 10 日 (木)
3434 東証 1 部 | http://www.kk-alpha.com/ir/

業績動向

営業キャッシュフローは前年同期水準を維持

3. 財務状況と経営指標

2019 年 3 月期上期末の財務状況は総資産が前期末比 1,986 百万円減少、自己資本比率は 51.7% から 53.2% へ向上し、中期経営計画目標の 50% をクリアしている。

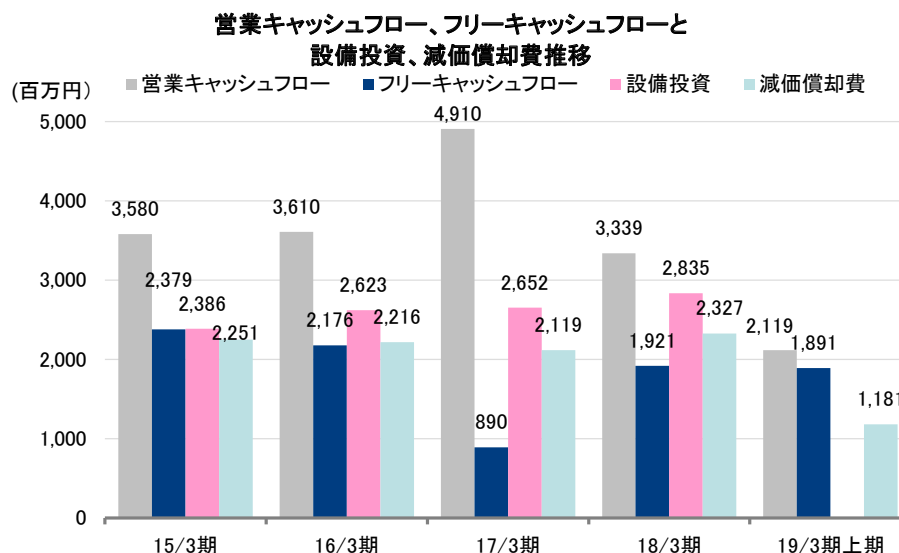
連結貸借対照表及び主要な経営指標

(単位：百万円)

	18/3 期末	19/3 期上期末	増減額
流動資産	28,423	27,976	-447
固定資産	25,167	23,626	-1,541
総資産	53,610	51,623	-1,987
流動負債	16,236	15,086	-1,150
固定負債	8,827	8,319	-508
負債合計	25,064	23,405	-1,659
純資産	28,546	28,218	-328
(安全性)			
流動比率	175.1%	185.4%	
自己資本比率	51.7%	53.2%	

出所：決算短信よりフィスコ作成

営業キャッシュフローは 2017 年 3 月期まで着実に増加していたが、2018 年 3 月期は中国での売掛金回収の遅れなどで減少に転じた。しかし 2019 年 3 月期上期は前年同期比でほぼ横ばい維持と回復している。



出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 今後の見通し

2019 年 3 月期は下期回復を念頭に期初計画の 1.6% 増収、 2.6% 経常増益予想を変更しないものの外部環境は厳しい

1. 2019 年 3 月期の業績見通し

2019 年 3 月期の業績は、売上高 60,000 百万円（前期比 1.6% 増）、営業利益 3,300 百万円（同 2.7% 増）、経常利益 3,200 百万円（同 2.6% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 2,100 百万円（同 3.7% 増）と、期初計画に変更はない。売上高については米国自動車販売が減少する見通しに加え、欧州も排ガス規制強化等で収益環境が悪化、アジアも米中貿易摩擦などの影響から下期の伸びが期待できない。セキュリティ機器事業は電気錠の拡販、フリーボックスの拡販などが見込まれ、売上面では順調な拡大を続けるだろう。しかし利益面では製品 MIX と為替影響等で伸びは限定的にとどまるだろう。

現状、上期に社内計画を若干上回って着地したということ、下期には主要取引先のモデルチェンジに伴う新車効果が見込めることから自動車部品事業について回復が見込めるとして、経済環境の悪化は懸念するものの同社では通期業績予想の達成は可能としている。ただし、米中貿易摩擦、米国での自動車販売減少、日米自動車摩擦懸念など、自動車部品事業での逆風がさらに高まっており、セキュリティ機器事業の健闘があっても、通期予想の達成にはハードルがあるとみられる。中期経営計画である売上高 60,000 百万円、営業利益率 5% 以上（3,000 百万円以上）の達成可能な状況にはあるが、初期計画達成には経費圧縮など合理化活動が必要になるとみられる。

2019 年 3 月期の業績見通し

（単位：百万円）

	18/3 期	19/3 期			
	実績	実績	売上高比	増減額	増減率
売上高	59,060	60,000	100.0%	940	1.6%
（自動車部品事業）	49,850	50,000	83.3%	150	0.3%
（セキュリティ機器事業）	9,210	10,000	16.7%	790	8.6%
営業利益	3,212	3,300	5.5%	88	2.7%
経常利益	3,118	3,200	5.3%	82	2.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,024	2,100	3.5%	76	3.7%

出所：決算短信、会社資料よりフィスコ作成

自動車部品事業は主要取引先の経営不透明が影響、 セキュリティ機器事業は全般的に拡大も利益の伸びは小さい

2. 事業の動向について

(1) 自動車部品事業

自動車部品事業の売上高予想が前期比 0.3% 増の 50,000 百万円となっているが、前期の国内向け販売好調の反動、また完成車輸出について米国向けの減少などを見込む。ただし、北米自動車について下期に日産のアルティマが 6 年ぶりのモデルチェンジとなるほか、VW の SUV や日産・ダイムラー合併の新型車向けの伸びで下期の挽回を見込んでいる。ただし、主要取引先の経営不透明な状況も加わり、達成が難しい状況にあると判断される。アジア向けは前期比 4.9% 増とタイにおける新モデル効果が見込まれ堅調な伸びを見込むが、米中貿易摩擦激化や中国国内での自動車販売低迷加速などでこちらも達成が難しいとみられる。ただし今回の計画には 2018 年 10 月に買収を決めた ALT SAS の収益寄与は（2018 年 10 月 2 日に 75%、2019 年 1 月末に 25% 取得予定）含まれていない。利益面では懸案であった国内自動車が生産効率向上などで営業黒字転換を想定しているが、国内生産台数減少の影響が大きくそれも難しくなると判断される。現状、同社計画は全体として昨今の国際的な環境急変の影響を織り込んでいるとは言い難く、ある意味で会社想定が上限になるだけでなく、通期で営業減益拡大の懸念もある。その意味では、ALT SAS の上乗せ分で売上の増額が見込めるものの、既存売上での減額懸念の中で利益確保には経費削減などの推進が必要とみられる。

(2) セキュリティ機器事業

セキュリティ機器事業は売上高 10,000 百万円(前期比 8.5% 増)、営業利益 1,100 百万円(同 4.4% 減)を見込む。国内は引き続き電気錠の拡大が見込まれ、また宅配物の再配達削減に向けた取り組み、IC カード対応コインロッカーなどの普及はインバウンド需要を受けて堅調に推移するだろう。ただし、経費増が影響、上期の状況から通期での営業増益達成は難しそうな状況にある。一方、海外は大幅な営業減益を見込んでいたが、こちらは為替効果などもあり計画の上振れが期待される。現状、セキュリティ強化の動きや宅配業者の人出不足、インバウンド需要拡大による多言語対応ロッカー需要などもあり、セキュリティ事業は会社計画の売上達成は可能と判断されるが、利益面では営業減益幅拡大懸念が残る。

アルファ | 2019 年 1 月 10 日 (木)
3434 東証 1 部 | <http://www.kk-alpha.com/ir/>

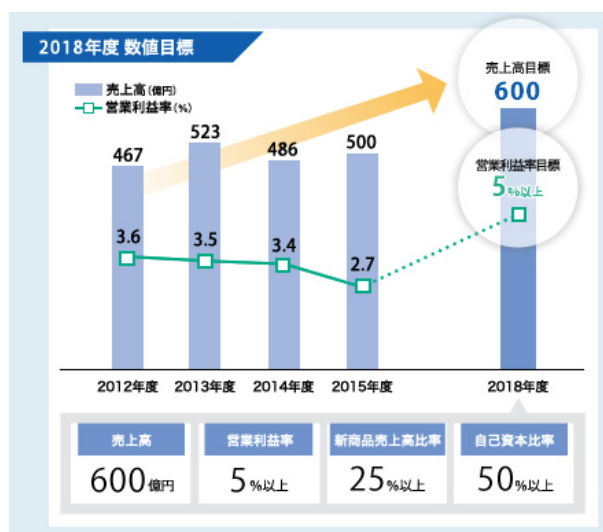
■ 中長期の成長戦略

次期中期経営計画では日々新たに自らを変えていく 「ALPHA WAY」の実践で 100 年企業を目指す

1. 100 年企業を目指し新たな成長ステージを模索

同社は 2016 年 6 月に 2016 年度から 2018 年度を対象期間とする中期経営計画を策定した。この中で、2018 年度売上高 600 億円、営業利益率 5% 以上の達成を目指している。基本方針として「収益基盤の強化」、「新事業・新商品開発」、「人材育成」の 3 つの方針を掲げ、100 年企業を目指すワンステップとしている。

中期経営計画 概要



出所：ホームページより掲載

アルファ | 2019 年 1 月 10 日 (木)
3434 東証 1 部 | <http://www.kk-alpha.com/ir/>

中長期の成長戦略

2. 各事業の展望

(1) 自動車部品事業の展望

自動車部品事業は、国内生産を集約化、合理化し、営業黒字化を目指す。現状、損益分岐点売上を 3 年前と比較し 20 億円引き下げに成功、2019 年 3 月期には営業黒字化が実現できる見通しとしていたが、ルノー、日産、三菱の 3 社連合の行方の不透明感が増し、2020 年 3 月期以降の方向性にも暗雲が漂う。本来は、主要顧客である日産自動車三菱自動車工業を傘下に収めたことから、今後の採用が高まるとみられていたが、今回の件で採用の遅延が懸念される。一方海外は ASSA ABLOY AB のカーアクセス・セキュリティ事業が 2018 年 3 月期よりフルに寄与している。しかも同社は 2018 年 10 月 2 日に自動車部品の塗装事業を主力とする SPPP の持株会社であるフランス ALT の全株式の取得、欧州でのドアハンドルビジネスの構築を行うこととなった。この取得により、欧州でもキーセットビジネスに加え成長が見込めるドアハンドルビジネスが加わることでシナジー効果も期待される。中期的には日産グループ以外での拡販、とりわけ VW への拡販が、欧州をスタートに中国を含めた事業拡大となればグローバル化に弾みがつく可能性がある。また同社はコア技術である認証技術／センサー技術／防盜技術を駆使し、ハンド式バックドアセンサーを 2013 年に市場投入以降、サイドドア／スライドドア含めた開き物への応用製品の開発にも着手している。さらに今後、自動運転システム対応では、ドアハンドルについてインテリジェントキーと交信するアンテナ内蔵ドアハンドルを高度化し、新たな市場拡大への期待もある。また ASSA ABLOY AB は欧州で先行普及しているカーシェアリングに対するキー管理システムのノウハウを生かし、業務用シェアリングビジネスで新たなビジネス展開も期待される。なお、同ビジネスには競合企業であるユーシン <6985> がミネベアミツミ <6479> の傘下に入り、アンテナや自動運転を含めた新たなソリューションビジネス展開を始める動きにあるが、同社はあくまでドアハンドルとキーセットビジネスにこだわり、得意分野でのビジネスに特化して拡大してゆく意向である。

(2) セキュリティ機器事業の展望

セキュリティ機器事業については、住宅・産業用ロック部門ではメカ・シリンダーと、エレクトロニクスによる識別技術を組み込んだメカトロニクス商品をさらに高度化、ed ロックシリーズを核に電子化を推進する。ホームオートメーションシステムへの接続や、スマートフォンでの施錠状態の確認等の機能などだけでなく、賃貸管理会社の働き方改革・効率化などの新分野で展開も期待される。

ロッカーシステムについてはネット通販市場の急拡大に伴い、宅配物の再配達削減に貢献する取り組みとして、同社は鉄道駅に展開しているコインロッカーで受け取りを可能とするシステムを京王線で開始、システム運用ビジネスを始めた。現在、インバウンド拡大によるコインロッカーオペレーション収入なども増えつつあるが、今後はスマートフォンで指紋認証、ドローン配送など、次々と新サービスが出現する中でセキュリティ分野での新たな取り組みも期待できる。なお、同分野についてもネットワークビジネスを広く展開するのではなく、あくまでもロッカー管理に特化して事業展開する方向である。

アルファ | 2019 年 1 月 10 日 (木)
3434 東証 1 部 | <http://www.kk-alpha.com/ir/>

中長期の成長戦略

(3) 新たな成長ステージを模索

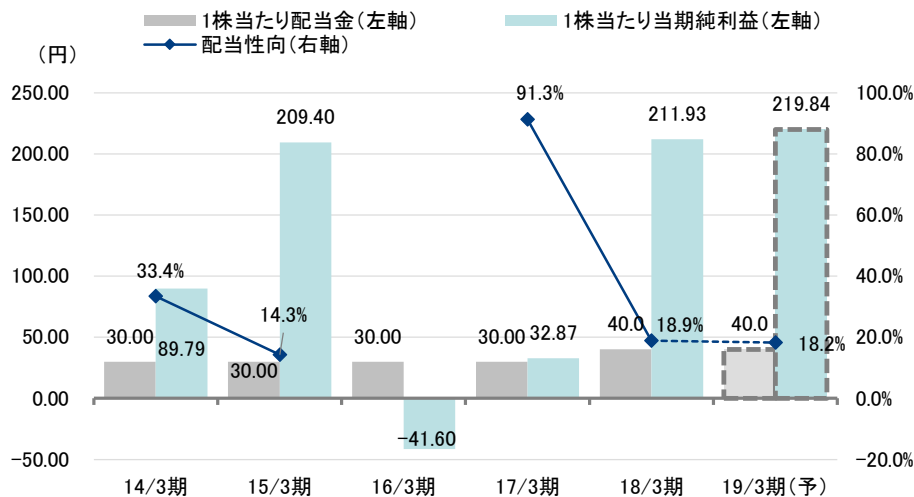
同社は 2023 年に創業 100 周年を迎えるが、次期中期経営計画では自動車部品事業の日本での黒字化の定着とユニット化など付加価値拡大、欧州事業ではキーセットに加えドアハンドルビジネス展開、アジア地区でも中国へ新たなビジネス展開を図る計画。またセキュリティ事業では安全・安心、IoT をにらんだ新たな製品投入、システム化などを模索することとなるだろう。このため新中期経営計画では量的拡大を目指すよりも、いかに付加価値の高いビジネスを増やすかに主眼を置く方向にある。現在、米中貿易摩擦、日米についても自動車関税問題の行方の不透明感、さらには自動運転をめぐり 5G 技術を含め業界地図の変化もあり得るなかで、2019 年度、2020 年度は 100 周年に向け、企業体質強化と次の 100 年に向けての種まきの時期になるだろう。

株主還元策

年間 40 円の長期安定配当を実施へ

同社は株主還元策として配当を実施している。配当の基本方針としては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、長期安定配当を継続して実施していくこととしている。この方針に基づき年間 1 株当たり 40 円の配当（うち中間配当 15 円）を行っていく方針である。

1株当たり当期純利益と配当金、配当性向推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ